

# 山村留学の里づくり

地域の  
特色ある  
活動

## 北海道美深町教育委員会

### 1 はじめに

美深町は、北海道の北部、旭川市と稚内市のほぼ中間に位置し、北海道第二の大河「天塩川」の中流域に広がる町で、面積は琵琶湖に匹敵する 672.09 km<sup>2</sup> を有し、冬は -30 度を下回り、夏も 30 度を越えることが珍しくなく、日本屈指の豪雪地域にあります。

産業は、水稲・畑作・野菜・酪農・肉牛生産など農業が中心であり、また、町の 85% を森林が占めており、その木材を利用した林業など 1 次産業を中心に発展し、平成 30 年には開拓 120 年を迎えた人口 4300 人の町です。

### 2 美深町の教育

町内には、認定こども園 1 園、小学校 1 校、中学校 1 校、小中併置校 1 校、道立の高等学校 1 校、高等養護学校 1 校があり、小さな町ですが多様な校種が揃った町です。

近年、町内の教育機関が集まり各学校の取組を通して連携を進めています。特に、英語教育では高校卒業時の目標を設定し、幼児教育から各段階に応じた到達目標を掲げて取り組む体制を創り上げるなど、町内の学校全てが一丸となってより良い教育づくりに取り組み、認定こども園から高等養護学校までが緩やかに連携した美深町らしい教育を形成しています。

### 3 仁宇布小中学校の山村留学

特色ある取組として、仁宇布小中学校の山村留学の取組を紹介します。

仁宇布小中学校は、美深町市街地から東方へ約 20km 離れた地域にある小規模へき地複式小中併置校です。地域の学校を守ろうと地域住民の手で協議が進められ、大自然の中での教育を望む子供たちを受け入れる取組として、平成 3 年度から地域と学校が密接に連携した山村留学制度推進協議会を立ち上げ、山村留学がスタートし、本年で 29 年目を迎えました。

小学校 1 年生から中学校 3 年生が一つの校舎の中で一緒に勉強し、互いに協力し学校生活を送るという教育活動が進められており、異年齢集団における児童生徒相互の教育効果は絶大なものがあります。

日常の学校生活をはじめとして、学校行事や総合的な学習の時間、教科の学習、地域の教育資源を活かした学習活動では、意図的に異年齢同士の活動の場を設定することで、自己有用感や達成感、自信を身につけることができます。わずか 1 年間の山村留学で子供が大きく成長できる学校です。

山村留学は、子供たちだけを預るホスターホーム（中学生のみ）と、親子等で地域に住み通学する山村親子住宅を提供した親子留学（小学生・中学生）の二つの受け入れ方式を用意しており、全国からこれまでに延べ 324 人を受け入れています。

北海道内でも特筆すべき大自然の中で生活をしたい、学習をしたいと願う子供たちを受け入れています。近年では様々な思いや悩み、自分を変えたいという強い願いを持つ子供たちや、不登校などの課題を抱える子供た

ちが増えています。

#### 4 山村留学による成果

全体の人数（小中合わせて20名前後）が少ないこともあり、学習面においては、教職員が子供たちと接する時間も多く、個に応じた指導が日常的になされています。

不登校等で課題を持つ子供たちは、これまでの学習事項が不足している箇所もあり、その子の状況に応じ補習などをして学習を進め、確かな学力を育てています。また、児童生徒を全職員で指導する体制が形成されており、職員による多面的な児童生徒理解と受容は、子供たちに安心感や安定感をもたらしています。

学校全体で取り組む学習も多く、小学1年生から中学3年生までが一緒に学習や活動に取り組む場面が数多くあり、協力し合う中で思いやる心やたくましさが育つ様子が見取れます。特に不登校だった子供たちは、仲間の良さや自分の果たすべき役割、求められる資質に気づき、大きく成長します。「学びなおし」と「育ちなおし」の場としての学校教育が機能しています。

地域での体験では、春の白樺樹液祭、トロッコ王国試乗会、手つかずの自然に囲まれたペンケニウプ川のイカダ下り、ヤマメ釣り、名水「仁宇布の冷水」、仁宇布の16滝、日本最北端の高層湿原調査、冬の歩くスキー遠足、酪農体験やジャガイモの収穫、羊の飼育体験など、仁宇布ならではの地域素材を活かしたユニークで豊かな体験ができます。

地域は、子供たちの出身地を問わず、地域の一員として大切に温かく迎え入れ、学校行事には絶大な協力がなされる一方、地域行事へは学校が積極的に参画しています。

学校と地域の両輪が互いに補完し合い、協働して教育が進められています。

#### ○ ひまわり会行事



学校に設置の特設コースでミニカーリング大会

#### ○ 山村協行事



清流（ペンケニウプ川）でのイカダ下り

### 5 おわりに

仁宇布小中学校の山村留学は、約30年の歴史の中でその必要性や公教育の中で取り組むべきか等、疑問が出されたこともあります。この中で各教育委員は実際に教育現場に向き、様々な活動を目にし、そして大自然の中で心豊かに学んだ子供たちがこの学校から社会に巣立っていく姿を確認してきました。

特に近年は、様々な課題を抱える子供たちがこの学校にきて、学校に毎日通えるようになり、自分の居場所を見つけ、そして自分を取り戻し、自信を持って元気に卒業していく姿を見ていると、これからの教育に求められる大切な学びがあることを強く感じます。

美深町としても、このことを受け、この学校を必要とする全国の子供たちを受け入れ、学びを保障するためにも、全力で山村留学の取組を支えていきますので、日本全国の子供たちの果敢な挑戦を心から待っています。



教育長  
石田 政充